

事業名 健保組合におけるがん検診精度管理算出の実用化システムを活用した精密検査受診勧奨介入事業 代表組合名： ジャパンディスプレイ健康保険組合
参加組合数： 21

背景 職域がん検診の多くは健康保険組合により提供されているが、健康保険組合によるがん検診の精度管理はほとんど実施されていないのが現状である。過年度事業で構築したがん検診精度管理指標算出システムを実装することで、健康保険組合において精度管理が可能となった。一方で、本システムにより、精検受診率が地域がん検診に比べて大幅に低い状況が明らかになったことから、精検受診率の向上が喫緊の課題である。

事業目的 本事業は、健康保険組合において、持続可能でかつ効果的ながん検診制度管理を実現するため、がん検診精度管理と精検受診勧奨を健康保険組合の日常業務として実施できるよう工程表を作成して実装することを目的として実施する。具体的には、精検対象者のうち精検未受診者をがん検診精度管理指標算出システムを用いて把握し、本事業で作成する受診勧奨の通知文書を送付し、精検受診率の向上を実現するという一連の工程を確立する。また、がん検診判定結果の入手や勧奨のための通知文書の作成など、参加組合で共同して実施することで効率化を図る。本事業により、健康保険組合においてがん検診の精度管理と精検受診勧奨を実施する工程を確立でき、その結果として職域がん検診の現状把握と精度向上に寄与できる。

事業概要

- (1) 精密検査対象者の把握
がん検診判定結果を用いて、精検対象者を把握する。また、判定結果の入手が困難なケースについては、コンソーシアム参加健保が共同で解決を試みる。
- (2) がん検診精度管理指標の算出と精検受診者の把握
がん検診精度管理指標算出システムを用いて、各種指標の算出と精検受診者の把握を行う。精検受診者は勧奨前後で継続して把握することで、勧奨の効果を推計する。
- (3) 通知文書の作成と送付
精検受診勧奨のための通知文書をナッジ理論を用いるなど効果的な文書を作成し、参加組合の実情に応じた方法で対象者に送付する。
- (4) 問い合わせ対応
勧奨後の問い合わせに対応するための体制を整備する。
- (5) 工程表の作成
がん検診精度管理を健康保険組合の日常業務として実装するため、工程表を作成する。

実施体制

本事業は、健保組合と研究機関が共同で実施する。事業の円滑な実施のため事業運営委員会を設置し進捗管理を行う。委員会事務局は代表組合とし、研究機関が事業全体のアドバイスを実施する。

事業評価指標

アウトプット指標： 精検受診率の把握、標準工程表の作成、判定結果受領、通知文書の作成
アウトカム指標： 精検受診率の改善、標準工程表の運用

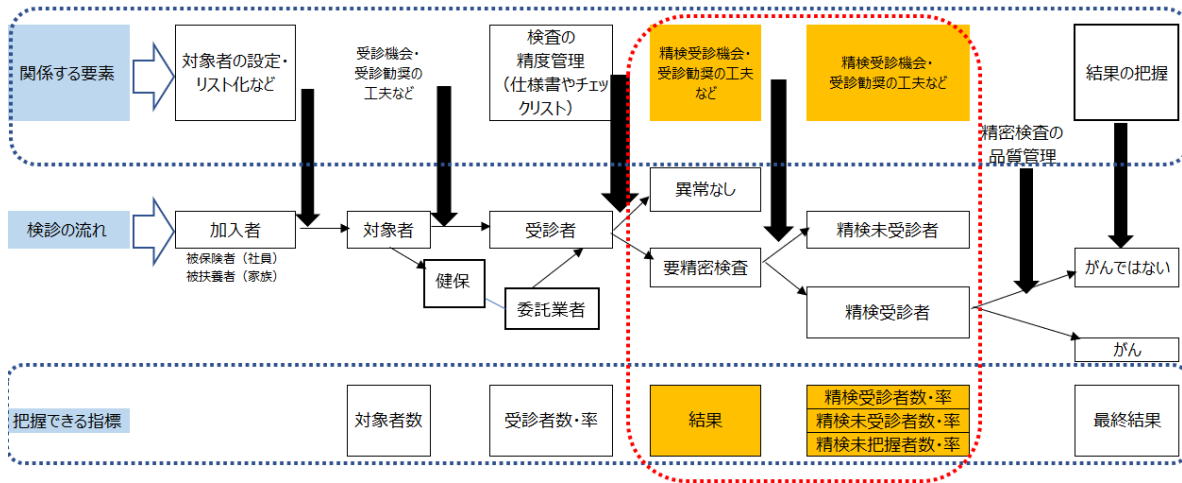
期待される成果

健康保険組合においてがん検診の精度管理と精検受診勧奨を実施する工程を確立でき、その結果として職域がん検診の現状把握と精度向上に寄与できる。

がん検診受診→	0カ月目	1カ月目	2カ月目	3カ月目	4カ月目	5カ月目	6カ月目	7カ月目	8カ月目	9ヶ月目	10カ月目	11カ月目
加入者 = がん検診受診者	がん検診受診											
	がん検診判定受領	がん検診判定受領										
			陽性者 精検受診	陽性者 精検受診	陽性者 精検受診	陽性者 精検受診		陽性者 精検受診	陽性者 精検受診	陽性者 精検受診	陽性者 精検受診	陽性者 精検受診
							陽性者で精検未受診者・勧奨通知受領					
健康保険組合 = がん検診提供者		がん検診判定受領	がん検診判定受領									
			精密検査対象者の把握									
						精検レセプト確認、 がん検診精度管理 指標算出 (1回 目)						精検レセプト確認、 がん検診精度管理 指標算出 (2回 目)
							通知文書送付 問い合わせ対応	問い合わせ対応	問い合わせ対応	問い合わせ対応	問い合わせ対応	
検診機関		がん検診判定提出 →健保組合										
委託業者			がん検診判定提出 →健保組合									
2023年度実施計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

本事業におけるがん検診受診勧奨実施体制 がん検診精度管理におけるプロセス指標の中で、キーとなる精検受診率の向上を目的とする実施体制構築

標準的ながん検診精度管理（点線赤枠内が精密検査受診勧奨介入）



共同事業により期待する効果

- ・持続的な精密検査受診勧奨を構築するため、共同の課題を抽出、その上で、各健保の実情に即した工程を開発する。
- ・本事業で構築する工程表や通知文書、さらには過年度事業で構築したがん検診精度管理指標算出システム（仮称）は、本事業終了後も運用可能であり、コンソーシアム参加健保組合では継続して利用する予定である。また、がん検診精度管理指標算出システム（仮称）と工程表、通知文書などは、コンソーシアム参加健保組合以外でも運用可能な汎用性の高いものとして開発
- ・がん検診の専門家との連携等、保険者単体では実現困難な事業スキームを構築
- ・スケールメリットによる費用の抑制（通知書作成、事後フォローの設置）
- ・過年度実施したシステム開発により抽出した精検受診率は地域に比較したとき、非常に低かった。精検受診率向上を共同で実現
- ・規模、業種が多様な健康保険組合で実施することによる精密検査受診勧奨確立への課題把握と解決
- ・がん検診の事業評価体制の確立

本事業における精検受診勧奨フロー

